

番号・課題名	12 トウキョウXの品質と安全性向上のためのトレーサビリティ ～これがトウキョウXの命です～
所属・氏名	環境畜産部 ○伊藤米人・小野 恵・鈴木亜由美 協力：高品質系統豚生産出荷組合、農林水産部農業振興課、農業事務所、 農業改良普及センター、家畜保健衛生所

〔目的〕

1997年よりトウキョウXの原種豚の飼養を畜産試験場で開始し、これから生産された子豚を農家に配付している。幸いにトウキョウXはマスコミにも取り上げられ、消費者に受け入れられるようになった。農家からの出荷頭数も当初の目標からすると未だ十分ではないが年々増加している。品質と安心・安全性の確保のために生産から流通までのシステムについて検討してきたので、その概要を紹介する。

〔方法〕〔結果〕

生産から流通まで流れを図に示した。それぞれの段階のポイントを以下に記載する。

1. 豚の血統管理

- 1) 維持豚の血統管理とともに、純粋繁殖する方法として維持群の中にとめ雄群を確保した。
- 2) 都内農家配付豚の血統管理として、雄を始祖豚の血統ごとに割り付けた。雌はこの雄に遠縁のものを配付することとした。都内農家から都外農家に出荷された豚の把握をし、雄は原種豚のとめ雄群から配付している。

2. 飼養方法の統一

- 1) 高品質系統豚生産出荷組合を結成し、この組合を中心に取り決めをしている。
- 2) トウキョウX生産マニュアルを作成し、これに基づいて同一条件で飼養することとした。特に、肥育飼料を指定し、指定飼料では魚粉を使用しない、非遺伝子組換えトウモロコシ等を使用することとした。
- 3) 個体ごとに耳票を装着することとした。

3. 流通の整備

- 1) トウキョウXの枝肉は、セリにかけないで全て特定の業者が扱うこととした。
- 2) 農家と卸売業者の話し合いで枝肉価格を決定することとした。その算定基礎は生産費や市場価格を参考とした。品質を保つ上から、1～4ランクで評価することとした。
- 3) 枝肉成績のデータは生産者に送られるとともに、農業事務所を介して畜産試験場に送られ、生産者の会議で全員に開示している。

4. 販売店の整備

- 1) 小売店の自主組織として TOKYOX Association が結成され、この中で販売方法を決め品質の安定を図っている。小売される肉には全て商標を付け、他の肉がトウキョウXとして販売されるのを防いでいる。
- 2) アンケート等を実施することにより消費者の消費動向を分析し、消費者が求める豚肉の把握に努めている。

〔考察〕

トウキョウX豚肉を消費者に対して安心して安全でおいしい豚肉として提供できる方法を検討してきた。その結果がトレーサビリティの構築につながっている。トウキョウXのトレーサビリティの構築は現在も進めているが、と畜場での生体と枝肉の照合等まだ十分ではなく目下徹底を図っている状況である。

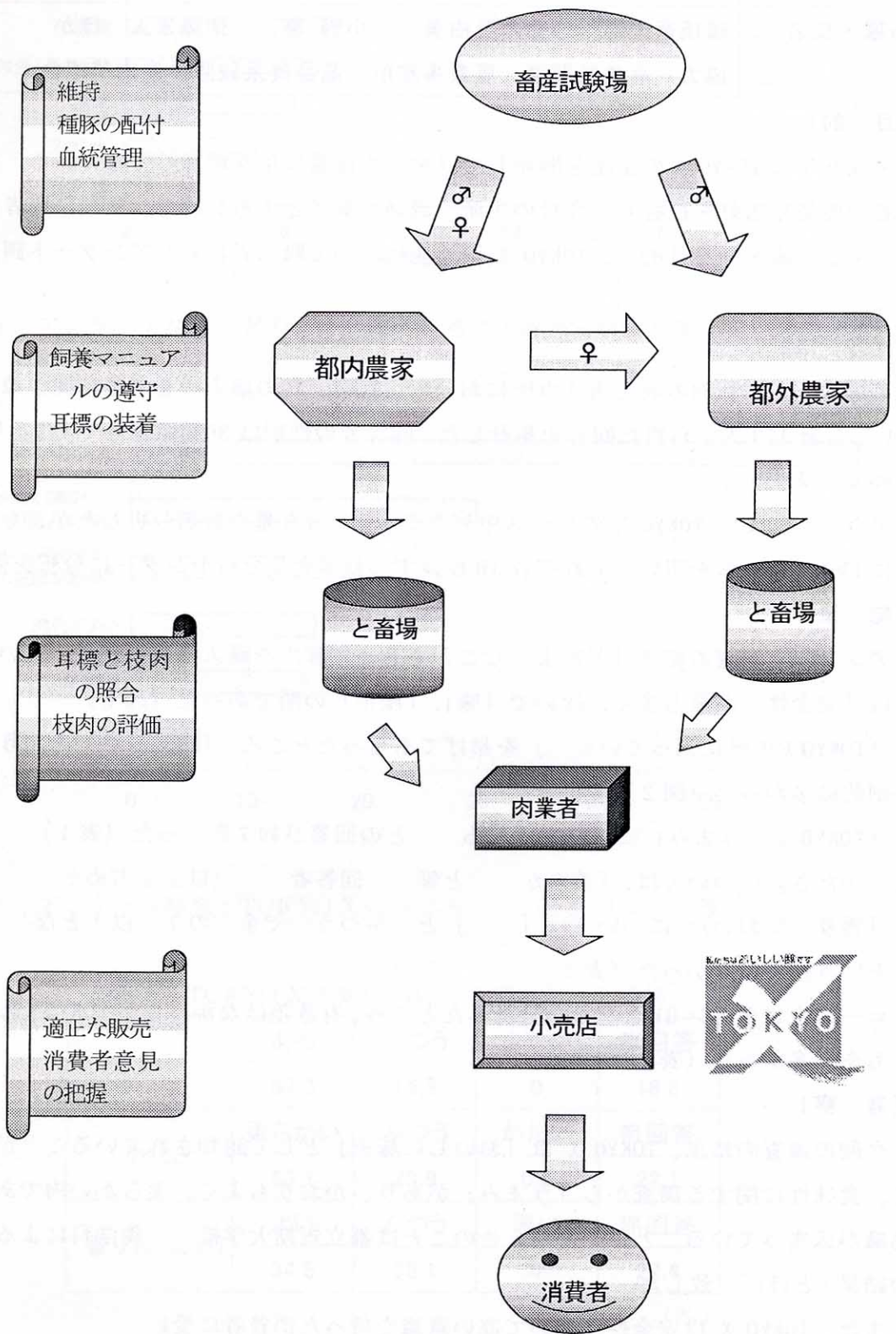


図. トウキョウXの生産流通における安全・品質向上とトレーサビリティ